

予 算 要 求 資 料

令和3年度当初予算 支出科目 款：衛生費 項：保健予防費 目：特定疾患対策費

事業名 難病患者対策指導事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

健康福祉部保健医療課特定疾患係 電話番号：058-272-1111 (内 2583)

E-mail：c11223@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 21,491 千円 (前年度予算額：21,558 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財産 収入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	21,558	10,779	0	0	0	0	0	0	10,779
要求額	21,491	10,745	0	0	0	0	0	0	10,746
決定額	21,491	10,745	0	0	0	0	0	0	10,746

2 要求内容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

難病患者及びその家族をサポートし、生きがいを持って生活することができる環境を整備するため、難病対策に関する各事業を実施する。

(2) 事業内容

① 難病生きがいサポートセンター事業

岐阜県難病団体連絡協議会へ委託し、地域において難病患者やその家族が生きがいを持って生活することができるよう、相談事業などを実施する。

② 難病医療ネットワーク推進事業

岐阜大学医学部附属病院を拠点病院として、岐阜県難病団体連絡協議会の事務局を設置し、関係機関が連携協力して難病医療ネットワーク事業を実施する。

③ 難病医療相談会実施事業

岐阜県難病団体連絡協議会に委託し、難病患者及びその家族に対して、医療相談会を年4回実施する。

④ 難病患者訪問相談事業

難病医療相談会に参加できない要支援難病患者やその家族が抱える悩みに

ついて、個別の相談指導、助言等を行うため、各保健所の保健師を訪問相談員として派遣する。

⑤ 難病対策地域協議会

保健所を中心として、関係機関等（地域の医師会・医師、看護・介護・福祉サービス事業者等の関係機関、患者会・家族会等）により構成される難病対策地域協議会を設置、運営し、地域の難病患者支援体制整備に資する。

(3) 県負担・補助率の考え方

負担区分 国 1/2、県 1/2

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額（千円）	事業内容の詳細
報償費	809	医師等講師に対する報償費
旅費	443	業務旅費
需用費	278	事務消耗品費、公用車活動燃料費
役務費	134	郵送料、電話代
委託料	19,771	難病生きがいサポートセンター運営、難病医療相談会等委託
使用料	56	会場使用料
合計	21,491	

決定額の考え方

事業評価調査書（県単独補助金除く）

<input type="checkbox"/> 新規要求事業
<input checked="" type="checkbox"/> 継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
 難病に関する各事業を実施することにより、難病患者及びその家族をサポートし、生きがいを持って生活することができる環境を整備する。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前	指標の推移			現在値	目標	達成率
	(H)	(H)	(H)	(H)	(H)	(H)	%

○指標を設定することができない場合の理由

各事業において最終的な目標数値を定めていないため、指標の設定はできない。

（前年度の取組）

・事業の活動内容（会議の開催、研修の参加人数等）

- 難病生きがいサポートセンター事業
 - ・難病相談・支援員の配置
 - ・なんでも相談・ふれあい相談会の実施
 - ・就労支援員による就労支援
 - ・難病に関する情報発信
- 難病医療ネットワーク推進事業
 - ・難病医療専門員の設置
 - ・難病医療連絡協議会の開催
 - ・保健所による処遇困難事例に対する連絡会議の開催
- 難病対策地域協議会
 - ・各保健所において、地域支援関係者や患者団体等を構成員として協議会を開催し、現状に関する情報共有や課題の確認を実施。

（前年度の成果）

・前年度の取組により得られた事業の成果、今後見込まれる成果
 難病患者の相談の機会等が確保されることで、地域で生活する難病患者及びその家族が、安心して生活することができ、生活の質の向上に寄与することができる。また、地域支援関係者間の情報共有等により、支援のネットワーク体制構築につなげることができる。

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い、△：必要性が低い 	
(評価) ○	難病患者は年々増加しており、必要とされる支援は多岐に渡るため、ニーズに合わせた様々な施策を行っていく必要があり、本事業の必要性は高い。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおり又はそれ以上の効果が得られている、△：まだ期待どおりの成果が得られていない 	
(評価) ○	行政と患者団体、難病拠点病院の関係機関が協力して事業を実施することで、ニーズに沿ったきめ細かい支援を実施することができている。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている、△：向上の余地がある 	
(評価) ○	全ての事業を県が単独で行うのではなく、関係団体を委託先として事業を実施することにより、それぞれの団体がノウハウを生かして事業を実施することができ、効率的である。

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 <p>本事業は、本来国庫 1/2、県費 1/2 で行う事業であるが、近年国庫補助金が所要額を下回る内示額となっているため、事業の実施に影響がでることが懸念されている。</p> <p>また、難病法の成立に伴い対象疾患が拡大されており、必要な支援が多岐にわたるため患者のニーズの把握が課題である。</p>

(次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか <p>難病患者及びその家族が、安心して生きがいを持って生活することができる環境を整備するため、今後も本事業を継続して実施していく。</p>

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課 組み合わせる理由や期待する効果 など	【○○課】
--	-------